

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」 東ユニット		
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アルメリアの花言葉「思いやり」グループホームアルメリア職員のこころです。緑豊かな市民のオアシス「遊縁通り」に面したロケーションは白を基調とした穏やかな安心感を演出しています。入居者の状況を電話や面会の都度伝えることで本人の困っていることなどを共有し話し合い対応に生かしています。職員が地域町内の役員となって活動に参加し、地域の皆さんと交流の輪を広げ、ボランティア等の受け入れも推進している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176100147&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176100147&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年1月27日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域密着型サービス導入前の平成15年、地元の認知症高齢者の安らぎの居場所として市の中心部に程近い住宅街に2ユニットで開設した。建物内部は広々として、東西のユニットをつなぐロビーは天井が高く、ガラス張りの窓から陽光が降り注ぎ、隣接した公園の自然と一体感のある開放的な空間になっている。地域貢献を目指した運営者の意図に沿い、ユニット合同の体操やレクリエーション、地域ボランティアを迎えた催しなど、交流や憩いの場として活用している。また家族宿泊室や職員宿直室を設け、防災設備機器やオゾン脱臭換気システムなど、随所に利用者の安全と快適な暮らしを支える配慮をしている。事業所と地域とのつながりは良好で、運営推進会議は2ヶ月毎に行い、行政とも円滑な協働を進めている。職員は利用者一人ひとりに沿ったケアに努め、穏やかで楽しい暮らしの支援に取り組んでいる。外部研修への派遣も積極的に行い、さらなる資質向上を目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示しており そこに向かって取り組んでいる	開設時に経営理念、ケア理念を策定し、事業所内に掲示している。職員は毎月のミーティングをはじめ、日常の具体的ケアを通して共有を図り、ケアサービスの実践に取り組んでいる。	地域密着型事業所としての意義を踏まえ、事業所の運営やサービスの根本的考えである理念について、改めて全職員でその意味合いや目指しているサービスを話し合う機会を持ち、理念の具現化に向け事業所全体で取り組んでいくことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	挨拶は日常的に行っており行事の案内も時折行っている	地域ボランティアによる事業所の催しを住民に案内している。地域や近隣住民からしめ縄の寄贈や野菜のおすそ分けがあったり、職員が役員として町内会会議に出席したり、地域の清掃活動に参加するなど、地域に溶け込む事業所としての基盤を作っている。さらに、住民との相互交流の機会を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員(町内代表)を通して行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施している その内容も連絡会議で各ユニットへ周知、向上に努めている	運営推進会議は家族や地域、行政の協力を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では、運営の実際や利用者状況、事故報告や行事等について報告し、意見や助言を得て運営に反映するように取り組んでいるが、幅広い意見収集までには至っていない。	地域に根ざした事業所運営や交流の促進のために、複数家族や地域の人達など幅広く会議に参加できるよう工夫し、多様な立場や視点に立った意見交換を行いながら、運営に反映していくことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実施しており相談にも乗ってもらっている	市担当者とは、円滑な協働関係を構築している。事業所の方針や現状についての情報共有を深めており、介護保険業務や職員、管理者交代などサービス面や運営に関する懸案事項などを相談し、共にサービスの向上に連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会にも参加小さなことでも拘束の有無確認をしている	身体拘束に関するマニュアルを整備し、外部研修参加者による伝達研修や、ミーティングでケアの実情につなげて理解や浸透を図っている。言葉遣いや態度など不適切と思われる対応については意識化を促し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみとし、利用者の動向の見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にも参加 グレーゾーンの話を職員で行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している 自立支援が必要な方には使ってもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の希望を聞きホーム側の対応も伝えている	家族の来訪の際には、利用者の様子を伝えてコミュニケーションを取るようし、話しやすい雰囲気づくりに努めている。介護計画作成の機会には家族の意向の聞き取りを行っている。	事業所では、意向などの表出をためらう家族の心情を察し、利用者個々に対するコメントや行事写真の送付を検討しているので、さらなる意向聴取のきっかけづくりとして、その取り組みに期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見を聞く機会を設けている	ケアや業務上の課題は、毎月のミーティングで活発に意見交換を行っている。運営者、施設長、管理者、リーダーをメンバーとする連絡会議を設置し、職員の意見やアイデアを吸い上げて運営に反映する仕組みをつくり、防災に関する取り組みなどに具体的に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が責任感を持って仕事にあたる様になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入り他施設とも情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談での情報などを基に食事、お茶、訪室時等コミュニケーションを取り本人の生活の質をスタッフ全員で協議、質の向上を心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時近況報告を行っておりキーパーソンの方とは価値観を共有し、電話連絡など交流を図っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスを求めているのか判断しアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理を行ったりレクリエーションをしながら触れ合う時間を持っている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	昔話、自宅に居たときの様子を伺いその人らしい生活を家族と共に共有している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出届けにて対応している 又馴染みの美容室・理容室・商店・かかりつけの病院など	利用開始前からの馴染みの関係の継続は、家族の協力で、通い慣れた美容室や商店、寺参りなどに出かけている。また付き合いのあった知人、友人等が来訪した場合は、ロビーで面会している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し食卓の席を決め集いの場にもなっている 他者の下膳など自らいり支えあっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話で話を聞くことがある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らしが良くなる様にアドバイスしている	職員は、利用者と多く会話することを心がけ、日常の関わりから意見や希望を聞くようにしている。困難な場合は、表情や仕草、家族からの情報で、本人本位に理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞きプラン反映に使用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の動作の記録により把握している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングによるモニタリングと面会時の家族の希望でプランに反映させている	利用者の状況については、毎月のモニタリングを行うことで、職員間で互いの気づきを持ち寄り、情報を確認して検討している。日々の生活状況は具体的に記録し、3ヶ月毎にアセスメントを実施し、来訪時の家族の希望も盛り込み、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活記録のほかに特記として記録を取りプランに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて補助具を検討して使用している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをして地域の方と暮らしを充実している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の利用で医師と介護者の情報の共有が出来ている	協力病院による2週に1回の内科、週1回の精神科の往診がある。他科の病院受診は家族対応であり、通院時の付添い人の手配は事業所で行っている。受診記録により、家族との情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師は週二回来ており他のものとも相談に応じてくれる			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の利用や電話を使い病院と情報の共有を図っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談をしており理解してもらっている	契約の際に、事業所の対応可能な支援や限界を伝えている。事業所では、家族の希望があれば終末期ケアに取り組む方針であるが、医師の指示、助言により、医療機関や施設に転院するケースが多い。		重度化、終末期のあり方は、利用者、家族の不安の一つとなっている。契約時に重度化や終末期ケアについての指針を基に、事業所のできることで、できないことの方針を共有し、状態変化に応じて段階的な合意を重ねると共に、職員との共有も徹底し、介護力向上の取り組みも合わせて期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの利用を進めているが全員に周知されていない			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の協力を得られるように電話番号表を掲示している	消防署の立会いで、夜間想定避難、通報訓練を実施している。スプリンクラーなど消防設備を整備し、公的避難場所の確認や停電に備えた暖房機器等の準備をしている。運営推進会議を通して地域住民の連絡網を作成し、連携確保に向けて取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にノックをする 声かけにも工夫し本人がいやな言葉を使わないようにしている	職員は、利用者が不快になるようなケアを慎み、気になる言葉や声かけのトーンは皆で注意し合っている。個人情報保護の取り扱いについても改めて確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけに工夫して自己選択の幅を持たせている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調を考え無理とならない様になっている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りなど促して出来ている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けは職員と利用者で行っている 本人の負担にならない様になっている	利用者の嗜好や嚥下状態に合わせてメニューや食事形態を変えている。また、その日の食べたい物を取り入れたり、行事や誕生会には特別メニューを設け楽しんで食事ができるよう工夫している。調理の準備や後片付けも、利用者の力量に応じて一緒にいき、食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じて量や大きさを工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄を一人一人に応じて促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が気にされない工夫をしてペットの交換や排泄の促しをしている	個々の排泄のパターンを把握し、時間誘導することで失敗を少なくし、本人の不安や羞恥心に配慮した対応を心がけている。衛生用品は、利用者の状態に合わせた種類を検討し、個別に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促しスムーズに排便できるようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間が偏らない工夫をしている 入浴を嫌う入居者にも声を掛けに工夫して入ってもらっている	入浴時間は、午後3時半から8時位の間で支援し、就寝前の入浴が可能になっている。入浴を好まない人も週1回は入浴できるよう工夫して対応している。入浴介助の時は利用者やゆったりとした会話を交し、くつろいだ入浴になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力に合わせ休息できるように声かけしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を使用して理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のレクや作業を本人の出来ることを考え行っている(ちり絵・マージャンなど)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフが同行し買い物、散歩などを実施している	食材の買い物と一緒に出かけたり、事業所の中庭で日光浴をしたり、畑や花壇の草取り、焼肉会など楽しんで戸外で過ごす機会を設けている。外出が少ない冬期間は、広いロビーを活用して体操やレクリエーションで気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせて実施している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話連絡などが出来るようにしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚・植物などを置いている	広々としたロビーには、本箱や植物、季節の装飾を施し、ガラス張りの窓からの日差しも明るく、季節の移ろいが身近に感じられる開放的なスペースとなっている。生活空間の居間には、畳の小上がりやソファ、食卓を配置し、利用者それぞれのくつろぎの場を作っている。廊下も広く、天窓からの採光により柔らかな明るさを保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどのレイアウトし、いつでもTVを見たり会話ができる 食卓席を決め相性の良い方で談話している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇など本人の馴染みのものの持ち込み	馴染みの家具や写真、植物などは、本人の希望に沿って配置し、居心地良く過ごせる工夫をしている。全居室にクローゼット、収納付きベッド、冷蔵庫やテレビを備えており、日常生活雑貨や衛生用品も目に触れぬよう整理している。また、脱臭換気システムを設置し、住環境の快適さに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に合わせて、準備見守りにより安全に配慮している			